

【特集】乳がん 家族のために、いま検診を

きっかけは検診クーポン

※敬称略

市長 がんが見つかったのは、検診の無料クーポンがきっかけと伺いました。

川崎 40歳のときに、乳がん検診の無料クーポンが届いたのですが、何となく先延ばしになっていて、利用期限が迫った2月末に検診を受け、が



女性がなるがんの1位である「乳がん」。少しでも皆さんが乳がんについて考えるきっかけになればと、乳がん経験者、医療関係者、市長による対談を行いました。

んが見つかりました。自分でもお風呂のときに触ったりしていたのですが気づかず、本当にクーポンが天の助けのようでした。3年ぶりに検診を受けたのですが、あと1年先延ばしにしていたらどうなっていたらと思うと怖かったですね。

市長 がんが見つかったとき、どう思われました？
川崎 同級生が2人続けて乳がんで

亡くなっていたので、自分も死ぬかもしれないと思いました。でも、自分が死ぬという怖さよりも、先に私がいなくなったら家族がどうなるのだろうかと思いました。子どもが中学生と小学5年生になる時だったので、2人とも高校卒業までは見届けたいとか、それまでの間に家族に何をしてあげられるかというのをずっと考えていました。

市長 内海先生は、そういう人をたくさん見てこられたのですよね。

内海 私が、ピンクリボン活動を始めたきっかけは、お母さんに先立たれた幼い子どもさんとの出会いでした。早期発見さえすれば、命も乳房も助かる。そして、家庭が壊れることもなく、仕事も継続でき、経済的にも助かるなど、いいことだらけなのに、そのことが十分に普及されていないんですね。

市長 乳がんになる人は多い？

前田 乳がんは、女性になるがんの1位で、11人に1人は乳がんになると言われています。乳がんは、40歳から急増しますが、早期発見が可能で、その場合は、生存率が高く、軽い治療で済むという特徴があります。最近は、新しい治療法が出てきて、多くの人が助かるようになりましたが、進行すると、治療がきつく、治療期間も長くなり、費用も高くなります。

がんを見つけるには？



市長 がんを早期発見するには？

前田 やはり検診ですね。検診では、自覚症状がないうちにがんを見つけることができるので、早期の段階で見つける可能性が高くなります。しかし実際は、検診を受ける人が少ないせいか、自分でしこりに触れるなど、自覚症状が出てから受診して、がんが見つかることが多いです。

市長 乳がんに限らず、普段、「検診に行こう」となりにくいんですよね。川崎さんは、検診を受けていない時期があったのには、何か理由があったのですか？

川崎 まさか自分が、という思いが頭のどこかにあったと思います。

内海 他人事ではないと思うのなら、検診を受けられると思うのですが、やはり他人事で、情報が多く発信されていて、自分は大丈夫という感じがありますよね。

山下 検診を受けない理由の1番は、

まさか私が…女性の11人に1人が乳がん



前田 茂人氏
【長崎医療センター外科科長
(乳腺専門医)】

●乳がんについて一言

西大村中学校出身で、長崎大学病院での乳がん診療チームを経て、2007年から長崎医療センターで乳がん診療に従事しています。

私は乳がんになった人が、元気に生きられるよう診療などのサポートをしています。



川崎 紀子氏
【乳がん経験者】

●乳がんについて一言

家族の誰かが欠けることは悲しく、それがもし自分だとしても、同じです。

当たり前だと思っている「日常」を守るためにも、定期的に検診を受け、がんを早期のうちに見つけることが大切だと実感しました。



内海 文子氏
【NPO法人ピンクリボン
ながさき理事長】

●乳がんについて一言

乳がんは30代、40代の女性もかかるがんですが、早期発見すれば怖くないがんです。

エコー検診、マンモグラフィ検診を受けましょう!あなたと、あなたの家族のために!



山下 直宏氏
【山下外科医院院長
(大村市医師会副会長)】

●乳がんについて一言

乳がんは早期に発見・治療することでほとんどが治るがんです。

市医師会では、プラットおおむら内の「まちなか保健室」で、「がんサロンひまわり」を開いていますので、心配事や相談など、お気軽にお越しください。

検診を家族でサポート

「忙しい」から。2番目は、「自分は大丈夫だ」と思っているから。そして3番目に、「がんが見つかることが怖い」からです。早期で見つかることで90%以上が助かるということを知っていたら、検診を受けても怖くない。がんが見つかることも怖くない、と意識が変化し、受診する人が増えるのではないかと思います。

市長 ご主人が「行ってこんね」、子どもも「行ってよ」と、家族から働きかけることも効果がありそうですね。

山下 そうですね。自分のためだと思いが乗らないことも、家族のためだと思うと、検診を受ける勇気が出てくると思うので、家族が背中を押すことがとても大事だと思います。30、40代の若い世代は、仕事や家事、育児で忙しく、自分のことは後回しになりがちです。だからこそ、「お母さん、検診に行つてよね」という、家族からの言は、とても大きな力を持つと思います。

市長 生きていてなんぼ。命あってなんぼ。検診を受けることで、命が助かるというのは、本当に素晴らしいこと。今後も乳がんの啓発を、皆さんからご意見を頂きながら生懸命やしていきたいと思えます。

やっています。

市民の皆さんにメッセージ

メッセージ

川崎 今回の対談について、娘達が、「いま元氣やけん公表していいよ」と言ってくれました。もし元氣じゃなかったら、子どもたちがこんな風に言ってくれることもなく、生活も違っていたのかと思うと、家族のためにも受診してよかったと心の底から思います。検診は早い、若いうちからぜひ受けて欲しいです。

内海 がんは、早期発見が一番大事。30歳になったら、1年に1回エコー検診を、40歳になったら、2年に1回マンモグラフィ検診を、必ず受けるようにしてほしいですね。

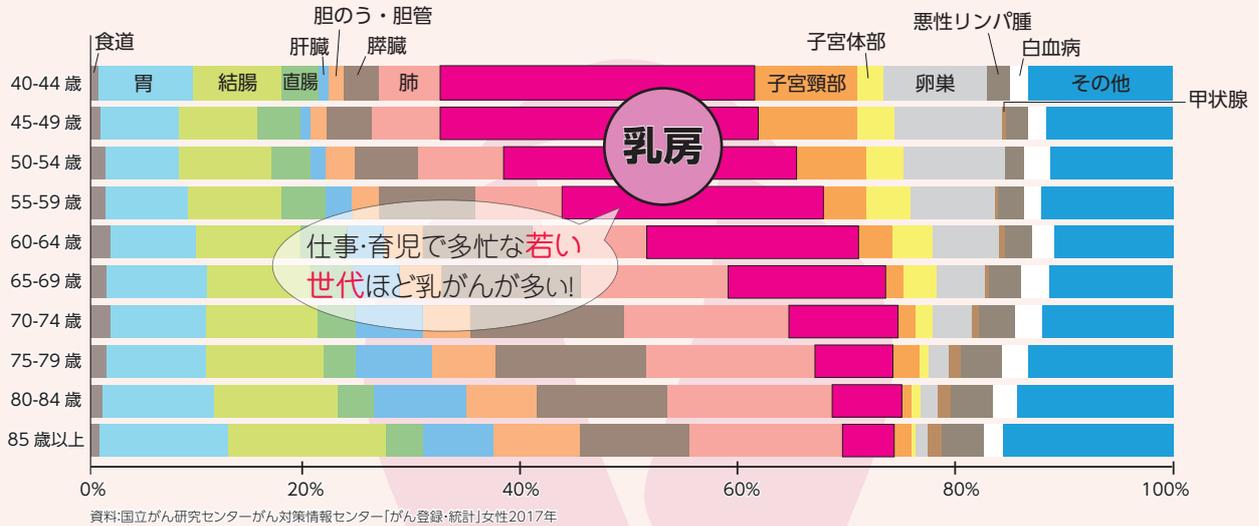
前田 大村は、若い人が増えている。乳がんの人が増える市でもありません。乳がんで亡くなる人を減らすことを市の目標にして取り組むことは、いまの大村に必要なことです。私は、治療する仕事をしています。早く見つかると、本当によくない、怖い病気ではないです。少しでも力になればと思います。

山下 がんというのは、早く見つかれば決して怖い病気ではないということを知って欲しいです。早く受診して、自分の命を守り、自分の命を守ることは、家族も守ることになるという意識が、市民の皆さんに広がっていくように思っています。

少しの勇気で、家族の笑顔。受けよう検診!

乳がんは、早期発見・治療すれば治るがんです。少しでも早くがんを見つけるため、必ず検診を受けましょう。

女性のがん(部位別、40歳以上)



大村市が実施する乳がん検診

- 対象年齢: 30~39歳 / 40歳以上
- 検診の種類: エコー検診 / マンモグラフィ検診
- 検診の内容: 問診、視触診 / 問診、マンモグラフィ(乳房X線)検査
- 受診頻度: 毎年度に1回 / 2年度に1回(前年度に未受診の人)
- 自己負担額: 600円 / 900円

市では、乳がん検診費用の9割を助成しているよ!



乳がん検診実施医療機関

医療機関名	乳がん検診		住所	電話
	エコー	マンモグラフィ		
山下外科医院	○	○	西三城町	54・7122
おおむら海辺のクリニック	○	○	杭出津1丁目	46・3663
市立大村市民病院	○	○	古賀島町	52・2163
大村中央産婦人科	○		水主町2丁目	52・3850
おび産婦人科医院	○		本町	54・1103
神田クリニック	○		木場1丁目	48・5648
田崎医院	○		古町1丁目	53・1234
中田外科胃腸科	○		古賀島町	54・0083
レディースクリニックしげまつ	○		古町1丁目	54・9200
よしだレディースクリニック	○		富の原2丁目	56・2227

乳がん検診の流れ

- ①実施医療機関に電話で予約
「大村市の乳がん検診を受けたい」とお伝えください。
※小さなお子さんが一緒でも受診できます。予約の際にお尋ねください。
- ②受診
予約日時に病院へ。
市役所への連絡や申請は不要です。
- ③結果確認
検診の結果について、医師から説明があります。
30代の方は毎年1回エコー検診を、40歳以上の方は2年に1回マンモグラフィ検診を受けましょう。

前年度に40歳になった人を対象に、マンモグラフィ検診の無料クーポン券を送付しています。
今年度対象: 昭和53年4月2日~昭和54年4月1日生まれの人
検診についてのお尋ね・お問い合わせは、国保けんこう課へ。

■国保けんこう課(内線171)